

生活で出会うカビのルーツ

濱田信夫

大阪市立環境科学研究所

1, よいカビ・悪いカビ

グッドニュース、バッドニュース。善玉コレステロール、悪玉コレステロール。人に役立つカビ、人に迷惑なカビ。多くのものに反対語があります。役立つカビと言えば、お酒を造るコウジカビ、チーズを作るアオカビ、鰹節を作るのに用いるカワキコウジカビ等を指します。一方、迷惑なカビと言えば、浴室に生えるクロカビ、餅に生えるアカカビ、人の体表に生える水虫菌などがあります。その他に、第三の、人から全く無視されているカビが無数にあります。それらのカビは、野や山で、枯れた樹木の葉や草を分解してくれます。人知れず地球環境を支えてくれる縁の下の力持ちです。これらがカビの大部分を占め、未発見の種類も多いと思われます。

嫌われるカビというのは、現代人がしばしばお目にかかり、人に近い存在と言えましょう。私たちの生活と非常に深く結びついており、人がいないと絶滅するようなカビなのです。

2 生活中的悪いカビ

浴室や洗濯機の中などの水回りには、多くの黒いカビが繁殖します。それらのカビは野外ではほとんど見られない、ユニークな性質を持っています。

洗濯機の中のカビは、洗剤を栄養源にしているのです。全自動洗濯機の脱水槽裏側の水面より上に洗剤の泡が付着すると、その泡はなかなか水に流されず、次第に濃縮されます。濃縮された洗剤を栄養にできるカビが、洗濯機に多く生えているのです。野外では、生長が遅いために、他のカビとの競争に負けてしまうと思われます。合成洗剤の成分である LAS などの陰イオン界面活性剤ではなく、人体に安全であるといわれている非イオン界面活性剤を好むカビです。各洗濯機に生えているカビの種類を調べると、粉石鹼を使っているか、合成洗剤を使っているかがわかります。

浴室にも、洗濯機とほとんど同じ種類のカビが生えています。とりわけ、床などの石鹼やシャンプーの飛び散りやすい部分に多いようです。これらのカビは、洗面所や台所でもやはり見つかりました。もはや住宅の中では、珍しくな

いカビのようです。それだけ、界面活性剤が私たちの生活に深く根を下ろしていると言えます。同じように湿った部分に生えるカビでも、住宅内と野外では、その種類や性質は全く異なるのです。

3 悪いカビのルーツ

これらのカビのルーツはどこにあるのでしょうか？元来、いずれのカビも、植物を分解して栄養を得て生きてきたことでしょう。その様なカビの世界に、シャンプーが好きな、ごく少数派のカビがいたと思われます。そんなカビは、その特性を生かすチャンスもなく、野や山で細々と生き延びていたことでしょう。人間の作り出した新しい環境の中で、そんなカビが繁殖するようになった。そんなカビが人に嫌われていると考えています。

洗剤やシャンプーに、カビが好きな非イオン界面活性剤が使われるようになったのは、30年ばかり前でした。少数派のカビが栄える新世界が作り出されたと言えましょう。江戸時代の浮き世風呂にも、五右衛門風呂にも、勿論カビは生えていたと思います。ただ、カビの種類は全く異なっていたことだけは間違いありません。

4. 悪いカビとのつきあい方

私たちの周りのカビ汚染は、住宅構造の変化などによって、少しずつ減ってきています。しかし、カビの苦情は近年増えてきました。その理由として、カビに対する市民の意識が変化したことが挙げられます。以前は、お風呂に黒い汚れがあるのは当たり前でした。最近では、壁の目地も天井も真っ白が当たり前と感じる人が増えたようです。カビを殺菌しても、その汚れを漂白しないカビ取り剤は売れません。しかし、カビを根こそぎにするのは、絶対無理です。

カビは、ほどほどに制御しさえすれば、健康上恐れるには及びません。

大気汚染や地球温暖化について語るまでもなく、人間は地球上の様々な生物に大きな影響を与えながら生きています。カビ汚染を制御することと、カビを毛嫌いすることとは別だと思えます。カビは、人に付いて離れない影法師のようなものです。傲慢な心を抑え、人の生活に依存して生きるカビに対する優しいまなざしが欲しいものです。